

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立梅若小学校
校長名	安藤 芳典

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
○総合結果 2, 3, 4, 6 年生において全教科で全国平均を上回った。大幅に上昇した昨年度と比較して伸び幅は目標の 3%に及ばない学年や教科があったが、上昇が昨年度の一過性のものではなく、継続した。今後も伸びが期待できる。特に 3, 4, 6 年生の躍進が大きい。全国平均を大きく上回っている。 ○同一学年正答率 (昨年比較) 国語 同等もしくは、6～10.5%上昇 算数 4～27.8%上昇 英語 0.1%上昇 英語 全国平均を上回り、区平均値と同等である。 今年度も国語の書くことや記述の分類では高い正答率を維持できた。 ○同一児童標準スコア (昨年比較) 国語 1.1～4.2P 上昇 算数 1.7～2.5P 上昇 社会 同等程度 理科 0.2～2.5P 上昇 ◎学習層の移行 (添付資料参照) 2 年生国語 A, B 層 52.8% D, E 層 27.8% 算数 A, B 層 63.9% D, E 層 22.2% 3 年生 A, B 層国語 21p 増加 算数 12P 増加 4 年生 A, B 層国語 10P 増加 B 層社会 1P 増加 A, B 層算数 10P 増加 理科 17P 増加 6 年生 A, B 層国語 4.7P 増加 社会 2P 増加 A, B 層算数 36P 増加 理科 1P 増加 多くの学年、多くの教科で D, E 層が減少して C 層が増えたり、C 層が減少して A, B 層が増えたりしている。学力層の上位移行が多いことも昨年に引き続き特徴である。これらのことから、教	●総合結果 5 年生において全教科で全国平均を下回り、同一児童昨年度比でも全教科で正答率を下回った。5 年生は昨年度大幅に学力が向上したが、本年度は一過性の反動と捉える。 【国語科】 ・2 年生 聞いたことを元に話すことに大きな課題がある。 ・3 年生 語や文のつながりと関係性を文章化することに課題がある。 ・4 年生 ローマ字や漢字辞典の使い方に課題がある。 ・5 年生 修飾語等、言葉の学習が定着していない。 ・6 年生 漢字の書き取り、説明文の読み取りに課題がある。 【算数科】 ・2 年生 文章問題の解答や問題文作りに課題がある。 ・3 年生 10000 までの数が十分に理解されていない。 ・4 年生 円や旧などの図形面に課題がある。 ・5 年生 図形の面積やグラフの読み取りに課題がある。 ・6 年生 グラフ等からの情報処理に課題がある。 【社会科】 ・4 年生 資料から考察して表現することに課題がある四方位が定着していない。 ・5 年生 基本知識が十分定着していない。

師の日々の指導が効果を上げたこと、授業力が高いことの証である。子供たちを伸ばしたいという教師の熱意が成果を上げている。 忘却対策としての梅若メソッド 3 日、3 週間、3 か月後の復習 (333 復習) が学習事項の定着に効果を上げている。 加えて昨年度から習慣化した作文指導を毎週末に行っている。そのため、記述式回答欄への未回答が減少し、文章による回答ができるようになった児童が増えた。 また、各学年の漢字学習においては一気学習を進めている。前期までに新出漢字を習い、後期からは復習を繰り返すことにより定着率が向上した。 令和 7 年度から理科専科による TT 授業や教科担任を行うようになって成果が出ている。 以上のことから基礎基本の知識や技能を身につけると活用の力も向上することが分かった。	・ 6 年生 貿易や水産業などの単元で基礎理解が不十分である。 【理科】 ・ 4 年生 渡具の使い方、星・太陽についての知識定着に課題がある。 ・ 5 年生 動植物と水や金属の体積について十分な知識を習得していない。 ・ 6 年生 各分野の基礎的な知識の定着が不十分である。 【外国語科】 ・ 6 年生 ヒアリングの聞き間違いや正対した解答の点に課題がある。
--	---

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ 朝食の摂取率は肯定的 90%程度である。 ・ 学校で学んだことが将来役に立つの設問はどの学年も 93%前後で全国平均並みである。 ・ 本校の特徴として、自己肯定感と正答率、生活習慣と正答率に明確な関連性は見られず、良い傾向にある。 ・ 家庭学習習慣は昨年度比でやや向上している。学年進行とともに時間数の減少が見られる。	・ 「学校以外の平日学習時間が全くしない」全学年で 25%～31%であり、定着しない原因となっている。 ・ 「1 か月の読書量は」、全く読まない 33～47% ととても多い。 ・ 学習準備等の学習や学校に対する主体性を図る設問がおしなべて低い傾向がある。 ・ ゲームやネット利用は 3 時間以上が半数。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・ 復習-目当て-自力解決-まとめ-適応の学習スタイルが対着して、児童が学び方を身につけている。 ・ 教師による課題解決型授業が定着して授業力が向上した。	・ 家庭学習の量的・時間的な取組が伸び悩んでいる。 ・ 個の学力状況や個性に応じた授業や取組がこれまで以上に必要である。 ・ 遅刻や不登校などの増加により、学習機会が

・本校教師は、学力を向上させる意識が高い。

十分にとれない児童の対応が課題である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 梅若学習メソッド

1. 333復習(3日、3週間、3か月スパン)による忘却率に対応した徹底定着を図る。
 - ① 3日以内の忘却防止 授業内復習、授業内練習、朝学習
 - ② 3週間以内の忘却防止 梅若タイム、家庭学習、宿題、朝学習、AI 徹底復習と練習
 - ③ 3か月以内の忘却防止 振り返り期間、補習教室、九九道場、梅若タイム、類似問題データベースやロイロノートを活用した復習の定着促進。全学年全教科
2. 週3回朝学習の設定、社会科・理科の復習を行う。
3. 「復習+授業+練習」の授業形式でアウトプットを徹底して定着率を上げる。
4. 1～3月を徹底復習期間として、問題データベースや類似問題で想起と定着を図る。
5. 隔週木曜日に復習時間、梅若タイムを設定する。
6. ふりかえり期間 7月、9～10月、12月、1月～4月(授業後の練習問題や朝学習、宿題)。
7. 類似問題の取組 毎週2回以上朝学習や家庭学習で行う。(1～4月)
8. 漢字の一気学習を前期7月、後期1月までに終え、以降反復練習によって定着率を向上させる。
9. 未習熟者対象の九九道場と筆算道場の設置(毎日休み時間2回)2,3年生対象
10. ターゲット補習学習 チャレンジスクール(3年生)木曜日、補習教室(D,E層)火曜日。
11. 5,6年生の算数指導を4展開とする。(D,E層を対象に管理職が行う。)
12. 作文学習1～2年生100字、3～6年生200字 毎週末の宿題として全員が取り組む。
13. 毎月1回木曜日6校時を「梅若タイム」として、復習時間を設ける(3か月忘却)。

(2) 梅若授業力向上メソッド

1. 梅若スタイルの設定 指導過程のモデル化定着 課題解決学習の推進。
2. 校長による課題解決学習法の模範授業研修会(各学級1回以上)を年間6回以上行う。
3. 若手授業検討会(時間外 OFF JT、自由参加)
4. 年度内学習効果の効果測定を行い、課題点に応じた指導を行う。(国語、算数12月)

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・各学年各教科とも各学力層の3%を上位移行させる。
- ・各学年各教科とも平均正答率の3%以上向上
- ・各教科の基礎分野の平均正答率を全国平均に近づける。
- ・児童アンケートによって授業が楽しいと答える児童を85%以上にする。(1月まで)
- ・同一集団の成長過程において、全学年が令和8年度比で向上させる。